

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2021～2022

課題番号：21K19405

研究課題名(和文)小児固形腫瘍の克服に資するドライバー遺伝子を標的としない新規治療法の開発

研究課題名(英文)Development of novel therapeutic strategies for pediatric solid tumor based on non-driver gene targeted approaches.

研究代表者

滝田 順子(Takita, Junko)

京都大学・医学研究科・教授

研究者番号：00359621

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,000,000円

研究成果の概要(和文)：小児固形腫瘍の多くは、依然として予後不良であり、有用な治療標的は同定されていない。成人がんとは異なり、体細胞遺伝子変異が少ないことから、その多様な分子病態は今尚多くが不明である。そこで本研究では、小児固形腫瘍の分子病態を解明するために多層的オミクス解析を実施した。その結果、神経芽腫において、がん幹細胞マーカーであるCD144とセリン代謝に関連するPHGDHが新規治療標的となりうることを示した。更に肝未分化胎児性肉腫(UESL)と肝間葉系過誤腫(MHL)の病態にはC19MCの構造異常によるmiRNAの発現上昇が関与しており、UESLの悪性化にはTP53経路が関与していることを見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小児固形腫瘍は一般的に遺伝子変異が少ないことから、臨床的多様性を規定する分子病態が十分に解明されていなかった。本研究によって、胎児性腫瘍である神経芽腫において、遺伝子変異によらないCD144およびPHGDHが新規治療標的となりうることが示され、また肝未分化胎児性肉腫では、均一な分子病態を有することが明らかとなった。本研究の成果により、胎児性腫瘍の臨床的多様性の分子病態の理解が一段と深まった。本成果は、小児がん領域において開発が進まなかったがん免疫治療の提案に寄与し、更にmiRNAクラスターであるC19MC領域の機能の解明の一助にも貢献するものであり、臨床的かつ学術的なインパクトは大きい。

研究成果の概要(英文)：There are still many pediatric solid tumor types with poor prognoses, and no effective therapeutic targets have been identified. Unlike adult cancers, the molecular pathogenesis of pediatric solid tumors remains largely unknown due to the low frequency of somatic driver gene mutations. In this study, we performed a multilayered omics analysis to elucidate the molecular pathogenesis of refractory pediatric solid tumors. The results showed that CD144, a cancer stem cell marker, and PHGDH, which is related to serine metabolism, are potential novel therapeutic targets in neuroblastoma. We also found that the pathogenesis of undifferentiated embryonal sarcoma of the liver (UESL) and mesenchymal hamartoma of the liver (MHL) involves elevated miRNA expression due to structural abnormalities of C19MC, and the TP53 pathway is involved in the malignant transformation of UESL.

研究分野：小児医学

キーワード：胎児性腫瘍 神経芽腫 肝未分化胎児性肉腫 肝間葉系過誤腫 マルチオミクス解析

## 1. 研究開始当初の背景

小児固形腫瘍の多くは胎児組織を起源とした胎児性腫瘍であり、依然として予後不良である。従って、小児固形腫瘍の克服のためには、分子病態に立脚した抗腫瘍効果が高くかつ、副作用をできるだけ回避した新規克服法の開発が急務と考えられる。しかし、多くの小児固形腫瘍は体細胞変異が少なく、有用な治療標的はほとんど同定されていないのが現状である。

応募者らは、胎児期の肝芽細胞から発生する肝芽腫を対象とした多層的オミックス解析により、腫瘍の発生起源となる細胞の特性が肝芽腫の悪性度に寄与していることを見出し、遺伝子変異の少ない肝芽腫において発生起源細胞の特性を基盤とした新規治療標的を同定した(Sekiguchi, Precision Oncol, 2020)。このことから、遺伝子変異の少ない胎児性腫瘍では、発生母地となる胎児組織の高い増殖能が進展に寄与しており、成体組織ではみられない、増殖に有意な胎児組織独自の機構は治療標的となりうるという仮説にたどり着いた。すなわち、胎児性腫瘍の全体像を明らかにして、発生起源細胞から引き継いだ高増殖能の分子機序を解明することは、ドライバー遺伝子によらない新規克服法の開発につながると期待される。

## 2. 研究の目的

小児固形腫瘍の多くは、依然として予後不良であり、有用な治療標的は同定されていない。難治性小児固形腫瘍のうち神経芽腫および肝芽腫といった胎児性腫瘍は、胚(胎児性)組織を発生母地とし、急速に増大することを特徴とする。体細胞遺伝子変異の蓄積で生じる成人がんとは異なり、遺伝子変異が少ないことから、その多様な分子病態は今なお多くが不明である。一方、高増殖能を有する胎児組織は、増殖シグナルの活性化、テロメラーゼの活性化や低酸素状態に耐える代謝機構といった特殊な生物学的特性を有している。従って、遺伝子変異の少ない胎児性腫瘍の進展、再発には、発生母地となる胎児組織の生物学的特殊性が深く関与している可能性が考えられ、発生母地の特殊な細胞増殖シグナルを遮断することは、新規克服法につながるものと期待される。そこで、本研究では、胎児性腫瘍を対象に、多層的オミックス解析を駆使して、腫瘍の起源細胞の生物学的特性に立脚した新規治療法の開発を目指す。

## 3. 研究の方法

### (1)ゲノム・エピゲノム解析

自施設および関連施設で保管している神経芽腫、肝未分化胎児性肉腫検体(UESL)も用いて、一連のゲノム・エピゲノム解析を実施する。また検証のために TARGET、DDBJ などの公開データも用いる。申請者らのグループは、パラフィン切片(FFPE)から DNA、RNA、microRNA を抽出し、一連のオミックス解析を行う系を確立しているため、FFPE 検体しか収集できない UESL および肝間葉系過誤腫(MHL)検体においても解析を進める。全ゲノム解析においては、Novaseq6000 を使用し、Parabricks (v3.5.0)、InterVar でマッピングとアノテーションを行う。日本小児がん研究グループ(JCCG)で行われている固形腫瘍観察研究のリソースも用いる。リファレンスとしては、日本国内のデータバンク(東北メディカルメガバンク機構など)のデータを使って解析を行う。また適宜、

Epic メチル化アレイを用いて DNA メチル化解析も行い、当該遺伝子の造腫瘍性に関して、情報を収集する。

#### (2)非翻訳領域のゲノム異常と発がんとの関連性の解明

非翻訳 RNA の中でも、miRNA と呼ばれる非常に短い 1 本鎖 RNA は遺伝子の働きを抑制する機能を持ち、多くの腫瘍の発がんに関与することが知られている(Boele, PNAS, 2014)。そこで、小児固形腫瘍(神経芽腫、UESL、MHL)の臨床検体と PDX 細胞を用いて、miRNA seq を行い、腫瘍特有のプロファイルを解明する。同時に、特に予後不良群において、顕著に発現変動を来している miRNA に着目し、病的意義を検討する。

#### (3)公開データを用いた腫瘍組織の特性と発生母地の胎児組織の生物学的特性の評価

上記 1-2 で得られた知見と公開データとして登録されている各分化段階の胎生組織の各種データを比較検討し、発生起源の細胞の生物学的特性を明らかにする。腫瘍と胎児組織に共通する細胞増殖や進展に寄与する有用な経路および代謝機構を解明し、新規標的の同定を試みる。

#### (4)治療標的の有用性の検証と新規創薬のスクリーニング

上記の解析で候補標的遺伝子に関して、さらに大多数の臨床検体を用いて、有用性の検証を行うと同時に、同定された機能獲得型変異遺伝子群については、これらを NIH3T3 あるいは c-myc を発現させたラットの初代培養系に遺伝子導入し、コロニー形成能の解析、細胞増殖能の解析を行う。また、機能喪失型標的遺伝子の候補については、目的の遺伝子の不活化を有する培養細胞株に遺伝子を強制発現させることにより、造腫瘍能に及ぼす影響を解析する。有用な治療標的に関しては、PDX マウスを用いた薬剤スクリーニングを行い、有効性と安全性の高い創薬の開発を目指す。

### 4. 研究成果

#### 1)肝未分化胎児性肉腫(UESL)と肝間葉系過誤腫(MHL)における分子病態の解明

UESL は小児の肝原発悪性腫瘍の中で 3 番目に頻度が高く、予後不良である。本症は、良性腫瘍である MHL を発生母地とする可能性が考えられているが、両者の発症分子機構は依然として不明である。そこで、UESL と MHL の分子病態を解明するために UESL17 症例から得られた 20 検体および MHL3 検体を用いて、多層的オミクス解析を行った。その結果、UESL と MHL の全例において、19q に存在する非翻訳領域である C19MC 領域の構造異常を見出した。C19MC は miRNA のクラスター領域であり、ゲノムの構造異常により、miR517、518 を含む miRNA の高発現を認めた。また UESL では全例に TP53/CHK2 経路の異常が検出されたが、MLH では検出されなかった。間葉系細胞株 HEK、MRC-5 に miR517、518 を導入したところ、有意な細胞増殖効果が確認された。以上の結果より UESL と MHL の病態には C19MC の構造異常による miR517、518 の発現上昇が関与しており、UESL の悪性化には TP53/CHK2 経路が関与している可能性が示された。

#### 2)神経芽腫における新規治療標的の同定

がん幹細胞マーカーと考えられる CD146(melanoma cell adhesion molecule [MCAM])をターゲットとした治療の有用性に関して、神経芽腫の細胞株及び患者由来腫瘍を用いて検討した。CD146 は高率に神経芽腫細胞で発現しており、細胞株において shRNA による CD146 発現の抑制及び抗ヒト CD146 ウサギポリクローナル抗体の

投与により優れた *in vitro* 細胞増殖抑制とアポトーシス細胞の増加を認めた。PDX マウスにおいても CD146 の治療標的として有用性が確認された(図 1)(Obu et al, Cancer Sci, 2022)。

一方、神経芽腫の DNA メチル化解析および遺伝子発現解析をもとに、新規に 11q 欠失群に極めて予後不良な超高リスク群を同定した(図 2)。この群において、セリンの代謝経路に関わる *PHGDH* の顕著な発現増強がみられたことから、この遺伝子が治療標的となりうるか否かを検証した(Watanabe et al, Oncogene, 2022)。

神経芽腫細胞株における *PHGDH* のノックダウン実験により

*PHGDH* 高発現細胞株において、有意な細胞増殖抑制がみられた。興味深いことに、この効果はアルギニン合成酵素 ASS1 欠損細胞でより顕著にみられた。マウスモデルを用いた動物実験において、*PHGDH* 阻害剤単独もしくは ASS1 阻害剤との併用により生体内での強い腫瘍増殖抑制効果を確認した。従って、これらの代謝阻害剤は神経芽腫の

新規治療薬として有望な候補であることが示された。本研究成果によって、神経芽腫における特有の代謝経路が治療標的となりうることが明らかとなり、新規克服法開発の一助が示された(図 3)。

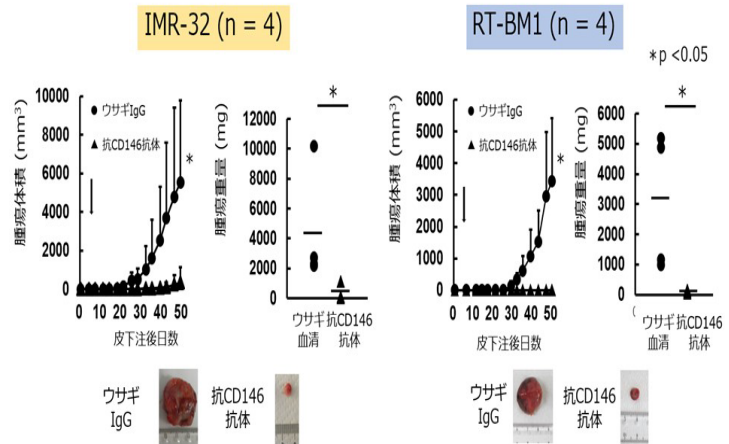


図 1 神経芽腫における抗 CD146 抗体の有用性

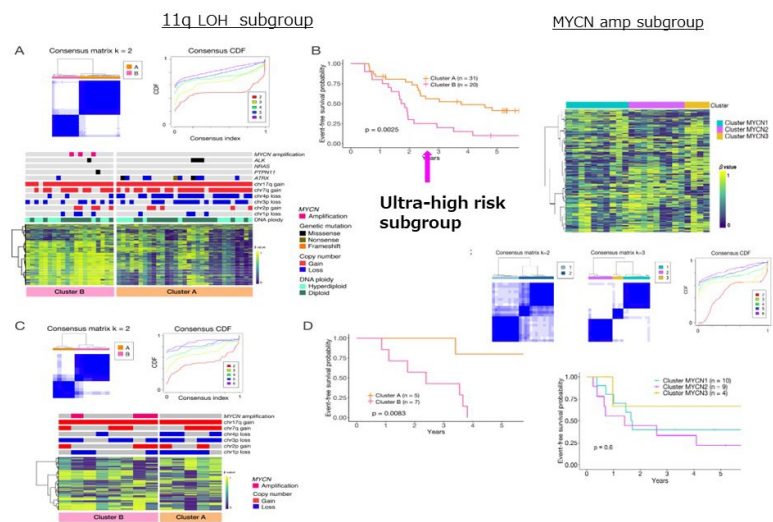


図 2 神経芽腫における超高リスク群の同定

神経芽腫における特有の代謝経路が治療標的となりうることが明らかとなり、新規克服法開発の一助が示された(図 3)。

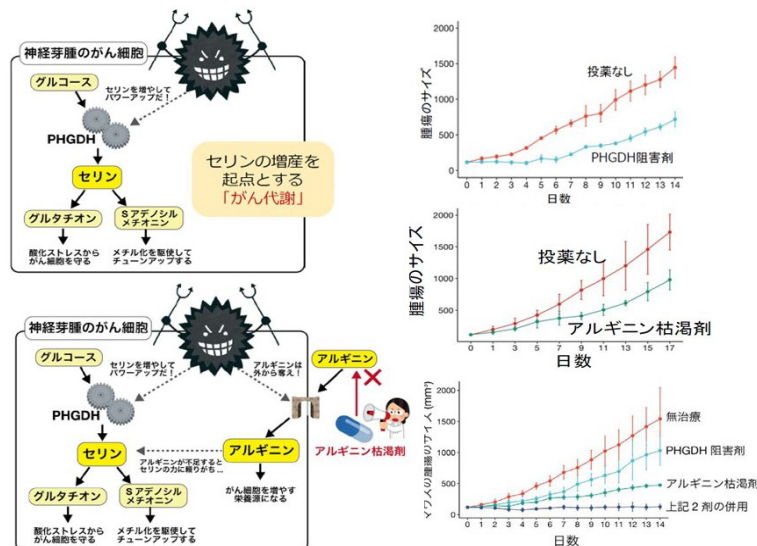


図 3 神経芽腫におけるセリンとアルギニン経路を標的とした新規治療法

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計45件（うち査読付論文 45件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Akahane K, Kimura S, Miyake K, Watanabe A, Kagami K, Yoshimura K, Shinohara T, Harama D, Kasai S, Goi K, Kawai T, Hata K, Kiyokawa N, Koh K, Imamura T, Horibe K, Look AT, Minegishi M, Sugita K, Takita J, Inukai T | 4. 巻<br>6             |
| 2. 論文標題<br>Association of allele-specific methylation of the ASNS gene with asparaginase sensitivity and prognosis in T-ALL  | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>Blood Adv  | 6. 最初と最後の頁<br>212-224 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1182/bloodadvances.2021004271.  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-             |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>Kouzuki K, Umeda K, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Okamoto T, Ogawa E, Okajima H, Furuta A, Adachi S, Daifu T, Takita J   | 4. 巻<br>69           |
| 2. 論文標題<br>Successful right hepatic trisectionectomy following percutaneous transhepatic portal embolization in a pediatric patient with undifferentiated embryonal sarcoma of the liver | 5. 発行年<br>2022年      |
| 3. 雑誌名<br>Pediatric Blood & Cancer   | 6. 最初と最後の頁<br>e29369 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1002/pbc.29369  | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-            |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Umeda K, Taura K, Kato I, Saida S, Hiramatsu H, Shimizu H, Nakamoto Y, Uto M, Mizowaki T, Sakamoto A, Adachi S, Okamoto T, Takita J            | 4. 巻<br>44            |
| 2. 論文標題<br>Intensive Multimodal Therapy Combined With Long-term Temozolomide and Etoposide Treatment for Recurrent Osteosarcoma to the Liver and Stomach | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>J Pediatr Hematol Oncol  | 6. 最初と最後の頁<br>175-177 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1097/MPH.0000000000002412   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-             |

|   |                      |
|---|----------------------|
| 1. 著者名<br>Tamai M, Kasai S, Akahane K, Thu TN, Kagami K, Komatsu C, Abe M, Watanabe A, Goi K, Miyake K, Inaba T, Takita J, Goto H, Minegishi M, Iwamoto S, Sugita K, Inukai T | 4. 巻<br>218          |
| 2. 論文標題<br>Glucocorticoid receptor gene mutations confer glucocorticoid resistance in B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia   | 5. 発行年<br>2022年      |
| 3. 雑誌名<br>J Steroid Biochem Mol Biol  | 6. 最初と最後の頁<br>106068 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1016/j.jsbmb.2022.106068   | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-            |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>Kudo K, Kubota Y, Toki T, Kanazaki R, Kobayashi A, Sato T, Kamio T, Sasaki S, Shiba N, Tomizawa D, Adachi S, Yoshida K, Ogawa S, Seki M, Takita J, Terui K | 4. 巻<br>6          |
| 2. 論文標題<br>Childhood acute myeloid leukemia with 5q deletion and HNRNP1-MLLT10 fusion: The first case report.  | 5. 発行年<br>2022年    |
| 3. 雑誌名<br>Blood Adv.   | 6. 最初と最後の頁<br>6209 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1182/bloodadvances.2022008428   | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-          |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Hiwatari M, Seki M, Matsuno R, Yoshida K, Nagasawa T, Sato-Otsubo A, Yamamoto S, Kato M, Watanabe K, Sekiguchi M, Miyano S, Ogawa S, Takita J. | 4. 巻<br>41              |
| 2. 論文標題<br>Novel TENM3-ALK fusion is an alternate mechanism for ALK activation in neuroblastoma.   | 5. 発行年<br>2022年         |
| 3. 雑誌名<br>Oncogene   | 6. 最初と最後の頁<br>2789-2797 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1038/s41388-022-02301-1   | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-               |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>Kawabata N, Hiramatsu H, Mikami T, Akazawa R, Tanaka K, Kouzuki K, Kubota H, Saida S, Kato I, Umeda K, Hirate T, Kanda K, Adachi S, Takita J.  | 4. 巻<br>69           |
| 2. 論文標題<br>Chimeric antigen receptor T-cell therapy for a patient with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia and leukoencephalopathy who relapsed after bone marrow transplantation. | 5. 発行年<br>2022年      |
| 3. 雑誌名<br>Pediatr Blood Cancer   | 6. 最初と最後の頁<br>e29734 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1002/pbc.29734  | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-            |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Nakajima K, Kubota H, Kato I, Isobe K, Ueno H, Kozuki K, Tanaka K, Kawabata N, Mikami T, Tamefusa K, Nishiuchi R, Saida S, Umeda K, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J | 4. 巻<br>113             |
| 2. 論文標題<br>PAX5 alterations in an infant case of KMT2A-rearranged leukemia with lineage switch.   | 5. 発行年<br>2022年         |
| 3. 雑誌名<br>Cancer Sci  | 6. 最初と最後の頁<br>2472-2476 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/cas.15380.  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-               |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Fukui S, Umeda K, Kubota H, Iwai A, Akazawa R, Isobe K, Tanaka K, Kouzuki K, Kawabata N, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Itatani Y, Funakoshi T, Adachi S, Takita J | 4. 巻<br>145             |
| 2. 論文標題<br>Use of Cabozantinib to Treat MET-amplified Pediatric Colorectal Cancer.  | 5. 発行年<br>2022年         |
| 3. 雑誌名<br>J Pediatr Hematol Oncol.  | 6. 最初と最後の頁<br>e423-e426 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1097/MPH.0000000000002482.   | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-               |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>Oksa L, Mkinen A, Nikkil A, Noora H, Laukkanen S, Rokka A, Haapaniemi P, Seki M, Takita J, Kauko O, Heinniemi M, Lohi O | 4. 巻<br>14         |
| 2. 論文標題<br>Arginine Methyltransferase PRMT7 Deregulates Expression of RUNX1 Target Genes in T-Cell Acute Lymphoblastic Leukemia.  | 5. 発行年<br>2022年    |
| 3. 雑誌名<br>Cancers (Basel)   | 6. 最初と最後の頁<br>2169 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.3390/cancers14092169. PMID: 35565298   | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-          |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Takagi M, Ogawa C, Iehara T, Aoki-Nogami Y, Ishibashi E, Imai M, Kimura T, Nagata M, Yasuhara M, Masutani M, Yoshimura K, Tomizawa D, Ogawa A, Yonemori K, Morishita A, Miyamoto S, Takita J, Kihara T, Nobori K, Hasebe K, Miya F, Ikeda S, Shioda Y, Matsumoto K, Fujimura J, Mizutani S, Morio T, Hosoi H, Koike R | 4. 巻<br>128             |
| 2. 論文標題<br>First phase 1 clinical study of olaparib in pediatric patients with refractory solid tumors.   | 5. 発行年<br>2022年         |
| 3. 雑誌名<br>Cancer  | 6. 最初と最後の頁<br>2949-2957 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1002/cncr.34270  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-               |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Shirai R, Osumi T, Sato-Otsubo A, Nakabayashi K, Ishiwata K, Yamada Y, Yoshida M, Yoshida K, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Tomizawa D, Takasugi N, Takita J, Miyazaki O, Kiyokawa N, Yoneda A, Kanamori Y, Hishiki T, Matsumoto K, Hata K, Yoshioka T, Kato M. | 4. 巻<br>61            |
| 2. 論文標題<br>Quantitative assessment of copy number alterations by liquid biopsy for neuroblastoma  | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>Genes Chromosomes Cancer  | 6. 最初と最後の頁<br>662-669 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1002/gcc.23073   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Yamashita H, Arakawa Y, Terada Y, Takeuchi Y, Mineharu Y, Sumiyoshi S, Tokunaga S, Nakajima K, Kawabata N, Tanaka K, Tanji M, Umeda K, Minamiguchi S, Ogawa S, Haga H, Takita J, Miyamoto S | 4. 巻<br>39            |
| 2. 論文標題<br>Whole-genome sequencing analysis of an atypical teratoid/rhabdoid tumor in a patient with Phelan-McDermid syndrome: a case report and systematic review                                    | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>Brain Tumor Pathol  | 6. 最初と最後の頁<br>232-239 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1007/s10014-022-00440-7  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Mayumi A, Tomii T, Kanayama T, Mikami T, Tanaka K, Ueno H, Yoshida H, Kato I, Kawamura M, Nakahata T, Takita J, Hosoi H, Imamura T  | 4. 巻<br>29              |
| 2. 論文標題<br>The combination of ruxolitinib and Bcl-2/Mcl-1 inhibitors has a synergistic effect on leukemic cells carrying a SPAG9: JAK2 fusion | 5. 発行年<br>2022年         |
| 3. 雑誌名<br>Cancer Gene Ther  | 6. 最初と最後の頁<br>1930-1938 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1038/s41417-022-00511-z  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-               |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Umeda K, Sakamoto A, Noguchi T, Uchihara Y, Kobushi H, Akazawa R, Ogata H, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Uto M, Mizowaki T, Haga H, Date H, Okamoto T, Watanabe K, Adachi S, Toguchida J, Matsuda S, Takita J | 4. 巻<br>45              |
| 2. 論文標題<br>Clinical Outcomes of Patients with Osteosarcoma Experiencing Relapse or Progression: A Single-institute Experience   | 5. 発行年<br>2023年         |
| 3. 雑誌名<br>J Pediatr Hematol Oncol   | 6. 最初と最後の頁<br>e356-e362 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1097/MPH.0000000000002521  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-               |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Isobe T, Takagi M, Sato-Otsubo A, Nishimura A, Nagae G, Yamagishi C, Tamura M, ...et al., Ogawa S, Takita J           | 4. 巻<br>13      |
| 2. 論文標題<br>Multi-omics analysis defines highly refractory RAS burdened immature subgroup of infant acute lymphoblastic leukemia | 5. 発行年<br>2022年 |
| 3. 雑誌名<br>Nature Communications   | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1038/s41467-022-32266-4  | 査読の有無<br>有      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-       |



|   |                   |
|---|-------------------|
| 1. 著者名<br>Yoshino Y, Goto H, Ito M, Tsurusaki Y, Takita J, Hayashi Y, Yanagimachi M                           | 4. 巻<br>39        |
| 2. 論文標題<br>YM155 and chrysin cooperatively suppress survivin expression in SMARCB1/INI1-deficient tumor cells | 5. 発行年<br>2022年   |
| 3. 雑誌名<br>Med Oncol   | 6. 最初と最後の頁<br>234 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1007/s12032-022-01843-4  | 査読の有無<br>有        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-         |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Uchihara Y, Kato I, Hanaki R, Saida S, Iwamoto S, Umeda K, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J   | 4. 巻<br>45              |
| 2. 論文標題<br>Autologous Recovery With Chromosomal Abnormalities After Unrelated Umbilical Cord Blood Transplantation With Myeloablative Conditioning in a Case of Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia | 5. 発行年<br>2022年         |
| 3. 雑誌名<br>J Pediatr Hematol Oncol  | 6. 最初と最後の頁<br>e142-e144 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1097/MPH.0000000000002571   | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-               |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Watanabe K, Kimura S, Seki M, Isobe T, Kubota Y, Sekiguchi M, Sato-Otsubo A, Hiwatari M, Kato M, Oka A, Koh K, Sato Y, Tanaka H, Miyano S, Kawai T, Hata K, Ueno H, Nannya Y, Suzuki H, Yoshida K, Fujii Y, Nagae G, Aburatani H, Ogawa S, Takita J | 4. 巻<br>41              |
| 2. 論文標題<br>Identification of the ultrahigh-risk subgroup in neuroblastoma cases through DNA methylation analysis and its treatment exploiting cancer metabolism   | 5. 発行年<br>2022年         |
| 3. 雑誌名<br>Oncogene  | 6. 最初と最後の頁<br>4994-5007 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1038/s41388-022-02489-2  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-               |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Irie M, Niihori T, Nakano T, Suzuki T, Katayama S, Moriya K, Niizuma H, Suzuki N, Saito-Nanjo Y, Onuma M, Rikiishi T, Sato A, Hangai M, Hiwatari M, Ikeda J, Tanoshima R, Shiba N, Yuza Y, Yamamoto N, Hashii Y, Kato M, Takita J, Maeda M, Aoki Y, Imaizumi M, Sasahara Y | 4. 巻<br>117           |
| 2. 論文標題<br>Reduced-intensity conditioning is effective for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in infants with MECOM-associated syndrome  | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>Int J Hematol  | 6. 最初と最後の頁<br>598-606 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1007/s12185-022-03505-7   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Mikami M, Masuda T, Kanatani T, Noura M, Umeda K, Hiramatsu H, Kubota H, Daifu T, Iwai A, Hattori EY, Furuichi K, Takasaki S, Tanaka S, Matsui Y, Matsuo H, Hirata M, Kataoka TR, Nakahata T, Kuwahara Y, Iehara T, Hosoi H, Imai Y, Takita J, Sugiyama H, Adachi S, Kamikubo Y | 4. 巻<br>45            |
| 2. 論文標題<br>RUNX1-Survivin Axis Is a Novel Therapeutic Target for Malignant Rhabdoid Tumors  | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>Mol Cells   | 6. 最初と最後の頁<br>886-895 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.14348/molcells.2022.2031   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                      |
|---|----------------------|
| 1. 著者名<br>Tasaka K, Kato I, Takeshita S, Yoshioka Y, Usami A, Uchihara Y, Akazawa R, Kamitori T, Saida S, Umeda K, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J          | 4. 巻<br>70           |
| 2. 論文標題<br>Second relapse of FLT3-ITD-positive acute myeloid leukemia after discontinuation of 3-year post-transplant maintenance therapy with gilteritinib | 5. 発行年<br>2022年      |
| 3. 雑誌名<br>Pediatr Blood Cancer  | 6. 最初と最後の頁<br>e30185 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1002/pbc.30185   | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-            |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>Torizuka D, Uto M, Umeda K, Kamitori T, Iwai A, Saida S, Kato I, Mineharu Y, Arakawa Y, Takita J, Mizowaki T  | 4. 巻<br>S0360-3016 |
| 2. 論文標題<br>A Scalp Dose Threshold for Preventing Permanent Alopecia in Scalp-Avoidance Whole-Brain Irradiation With Volumetric Modulated Arc Radiation Therapy for Pediatric Patients With Medulloblastomas | 5. 発行年<br>2023年    |
| 3. 雑誌名<br>Int J Radiat Oncol Biol Phys  | 6. 最初と最後の頁<br>-    |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1016/j.ijrobp.2023.01.027  | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-          |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Yoshino Y, Goto H, Ito M, Tsurusaki Y, Takita J, Hayashi Y, Yanagimachi M                           | 4. 巻<br>39      |
| 2. 論文標題<br>YM155 and chrysin cooperatively suppress survivin expression in SMARCB1/INI1-deficient tumor cells | 5. 発行年<br>2022年 |
| 3. 雑誌名<br>Medical Oncology  | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1007/s12032-022-01843-4  | 査読の有無<br>有      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-       |

|  |                           |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名<br>Tanaka K, Kato I, Dobashi Y, Imai JI, Mikami T, Kubota H, Ueno H, Ito M, Ogawa S, Nakahata T, Takita J, Toyoda H, Ogawa C, Adachi S, Watanabe S, Goto H. | 4. 巻<br>113               |
| 2. 論文標題<br>The first Japanese biobank of patient derived pediatric acute lymphoblastic leukemia xenograft models   | 5. 発行年<br>2022年           |
| 3. 雑誌名<br>Cancer Science   | 6. 最初と最後の頁<br>3814 ~ 3825 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/cas.15506  | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-                 |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Imayoshi N, Yoshioka M, Tanaka K, Shyh-Ming Yang, Akahane K, Toda Y, Hosogi S, Inukai T, Okada S, David J Maloney, Nakahata T, Takita J, Kato I, Ashihara E | 4. 巻<br>590           |
| 2. 論文標題<br>CN470 is a BET/CBP/p300 multi-bromodomain inhibitor and has an anti-tumor activity against MLL-rearranged acute lymphoblastic leukemia                     | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>Biochemical and Biophysical Research Communications   | 6. 最初と最後の頁<br>49 ~ 54 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1016/j.bbrc.2021.12.078  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|  |                           |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名<br>Tasaka K, Ueno H, Yamasaki K, Okuno T, Isobe T, Kimura S, Umeda K, Hara J, Ogawa S, Takita J                                       | 4. 巻<br>113               |
| 2. 論文標題<br>Oncogenic FGFR1 mutation and amplification in common cellular origin in a composite tumor with neuroblastoma and pheochromocytoma | 5. 発行年<br>2022年           |
| 3. 雑誌名<br>Cancer Science   | 6. 最初と最後の頁<br>1535 ~ 1541 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/cas.15260  | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-                 |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Masuda T, Maeda S, Shimada S, Sakuramoto N, Morita K, Koyama A, Suzuki K, Mitsuda Y, Matsuo H, Kubota H, Kato I, Tanaka K, Takita J, Hirata M, Kataoka TR, Nakahata T, Adachi S, Hirai H, Mizuta S, Naka K, Imai Y, Kimura S, Sugiyama H, Kamikubo Y | 4. 巻<br>113             |
| 2. 論文標題<br>RUNX1 transactivates BCR ABL1 expression in Philadelphia chromosome positive acute lymphoblastic leukemia   | 5. 発行年<br>2021年         |
| 3. 雑誌名<br>Cancer Science   | 6. 最初と最後の頁<br>529 ~ 539 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/cas.15239  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-               |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Yokosuka T, Ito M, Yoshino Y, Hirose A, Nakamura W, Sakurai Y, Hayashi A, Fujita S, Miyagawa N, Keino D, Iwasaki F, Hamanoue S, Yanagimachi M, Goto S, Nagai J, Ueno H, Takita J, Tanaka Y, Taga T, Goto H | 4. 巻<br>196             |
| 2. 論文標題<br>Using the in vitro drug sensitivity test to identify candidate treatments for transient abnormal myelopoiesis   | 5. 発行年<br>2021年         |
| 3. 雑誌名<br>British Journal of Haematology   | 6. 最初と最後の頁<br>764 ~ 768 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/bjh.17970  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-               |

|   |                           |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名<br>Kurata M, Onishi I, Takahara T, Yamazaki Y, Ishibashi S, Goitsuka R, Kitamura D, Takita J, Hayashi Y, Largaesapda D A, Kitagawa M, Nakamura T | 4. 巻<br>112               |
| 2. 論文標題<br>C/EBP induces B cell acute lymphoblastic leukemia and cooperates with mutations  | 5. 発行年<br>2021年           |
| 3. 雑誌名<br>Cancer Science  | 6. 最初と最後の頁<br>4920 ~ 4930 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/cas.15164   | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-                 |

|  |                           |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名<br>Mikami T, Kato I, Oiki N, Okamoto S, Kamitori, Tasaka K, Ogata H, Tanaka K, Umeda K, Hiramatsu H, Okamoto T, Adachi S, Takita J  | 4. 巻<br>44                |
| 2. 論文標題<br>Improvement of Bone Marrow Necrosis by Tyrosine Kinase Inhibitor Substitution in a Pediatric Patient With Philadelphia Chromosome-positive Acute Lymphoblastic Leukemia | 5. 発行年<br>2021年           |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Pediatric Hematology/Oncology   | 6. 最初と最後の頁<br>e539 ~ e542 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1097/MPH.0000000000002157   | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-                 |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Mikami T, Kato I, Wing JB, Ueno H, Tasaka K, Tanaka K, Kubota H, Saida S, Umeda K, Hiramatsu H, Isobe T, Hiwatari M, Okada A, Chiba K, Shiraishi Y, Tanaka H, Miyano S, Arakawa Y, Oshima K, Koh K, Adachi S, Iwaisako K, Ogawa S, Sakaguchi S, Takita J | 4. 巻<br>113           |
| 2. 論文標題<br>Alteration of the immune environment in bone marrow from children with recurrent B cell precursor acute lymphoblastic leukemia  | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>Cancer Science   | 6. 最初と最後の頁<br>41 ~ 52 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/cas.15186  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-             |

|   |                             |
|---|-----------------------------|
| 1. 著者名<br>Somazu S, Tanaka Y, Tamai M, Watanabe A, Kagami K, Abe M, Harama D, Shinohara T, Akahane K, Goi K, Sugita K, Moriyama T, Yang J, Goto H, Minegishi M, Iwamoto S, Takita J, Inukai T | 4. 巻<br>25                  |
| 2. 論文標題<br>NUDT15 polymorphism and NT5C2 and PRPS1 mutations influence thiopurine sensitivity in acute lymphoblastic leukaemia cells  | 5. 発行年<br>2021年             |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Cellular and Molecular Medicine  | 6. 最初と最後の頁<br>10521 ~ 10533 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/jcmm.16981  | 査読の有無<br>有                  |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-                   |

|  |                           |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名<br>Obu S, Umeda K, Ueno H, Sonoda M, Tasaka K, Ogata H, Kozuki K, Nodomi S, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Okamoto T, Ogawa E, Okajima H, Morita K, Kamikubo Y, Kawaguchi K, Watanabe K, Iwafuchi H, Yagyu S, Iehara T, Hosoi H, Nakahata T, Adachi S, Uemoto S, Heike T, Takita J | 4. 巻<br>112               |
| 2. 論文標題<br>CD146 is a potential immunotarget for neuroblastoma   | 5. 発行年<br>2021年           |
| 3. 雑誌名<br>Cancer Science   | 6. 最初と最後の頁<br>4617 ~ 4626 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/cas.15124  | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-                 |

|  |                           |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名<br>Ishii Y, Sato-Otsubo A, Takita J, Morio T, Takagi M  | 4. 巻<br>63                |
| 2. 論文標題<br>Copy number alteration analysis for neuroblastoma using droplet digital polymerase chain reaction | 5. 発行年<br>2021年           |
| 3. 雑誌名<br>Pediatrics International   | 6. 最初と最後の頁<br>1192 ~ 1197 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/ped.14606  | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-                 |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Van Thillo Q, De Bie J, Seneviratne J, Demeyer S, Omari S, Gielen O, Sarah P, Segers H, Boecks N, Marshall G, Cheung B, Isobe K, Kato I, Takita J, Amos TG, Deveson IW, McCalmont H, Lock RB, Oxley EP, Garwood MM, Dickins RA, Uyttebroeck A, Carter DR, Cools J, de Bock CE | 4. 巻<br>12              |
| 2. 論文標題<br>Oncogenic cooperation between TCF7-SPI1 and NRAS(G12D) requires $\beta$ -catenin activity to drive T-cell acute lymphoblastic leukemia   | 5. 発行年<br>2021年         |
| 3. 雑誌名<br>Nature Communications   | 6. 最初と最後の頁<br>4164-4164 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1038/s41467-021-24442-9  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-               |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Kato K, Yoshimi A, Noda A, Otani H, Hojo H, Tanaka M, Tanaka Y, Ito Y, Nishimura R, Takita J, Yanai T, Koike K, Tsuchida M | 4. 巻<br>63              |
| 2. 論文標題<br>Distinct clonal evolution in a case with anaplastic embryonal rhabdomyosarcoma  | 5. 発行年<br>2021年         |
| 3. 雑誌名<br>Pediatrics International   | 6. 最初と最後の頁<br>782 ~ 789 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/ped.14499  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-               |

|   |                              |
|---|------------------------------|
| 1. 著者名<br>Akazawa R, Otsuka S, Kato I, Imadome K, Takita J                              | 4. 巻<br>64                   |
| 2. 論文標題<br>Transient remission of chronic active EBV infection after chemotherapy alone | 5. 発行年<br>2022年              |
| 3. 雑誌名<br>Pediatr Int   | 6. 最初と最後の頁<br>e14836 -e14836 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/ped.14836.  | 査読の有無<br>有                   |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-                    |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Yokosuka T, Ito M, Yoshino Y, Hirose A, Nakamura W, Sakurai Y, Hayashi A, Fujita S, Miyagawa N, Keino D, Iwasaki F, Hamanoue S, Yanagimachi M, Goto S, Nagai J, Ueno H, Takita J, Tanaka Y, Taga T, Goto H | 4. 巻<br>196           |
| 2. 論文標題<br>Using the in vitro drug sensitivity test to identify candidate treatments for transient abnormal myelopoiesis   | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>Br J Haematol  | 6. 最初と最後の頁<br>764-768 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/bjh.17970.   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-             |

|   |                        |
|---|------------------------|
| 1. 著者名<br>Kimura S, Sekiguchi M, Watanabe K, Hiwatari M, Seki M, Yoshida K, Isobe T, Shiozawa Y, Suzuki H, Hoshino N, Hayashi Y, Oka A, Miyano S, Ogawa S, Takita J | 4. 巻<br>16             |
| 2. 論文標題<br>Association of high-risk neuroblastoma classification based on expression profiles with differentiation and metabolism                                   | 5. 発行年<br>2021年        |
| 3. 雑誌名<br>PLOS ONE  | 6. 最初と最後の頁<br>e0245526 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1371/journal.pone.0245526  | 査読の有無<br>有             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-              |

|  |                             |
|--|-----------------------------|
| 1. 著者名<br>Akazawa R, Kato I, Kubota H, Isobe K, Masuno H, Mikami M, Shiota M, Kouzuki K, Kawabata N, Tanaka K, Saida S, Umeda K, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J | 4. 巻<br>68                  |
| 2. 論文標題<br>Inotuzumabozogamicin is an effective treatment for CD22 positive acute undifferentiated leukemia: A case report                                       | 5. 発行年<br>2021年             |
| 3. 雑誌名<br>Pediatric Blood Cancer   | 6. 最初と最後の頁<br>e28976-e28976 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1002/pbc.28976  | 査読の有無<br>有                  |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-                   |

|   |                             |
|---|-----------------------------|
| 1. 著者名<br>Kamitori T, Umeda K, Akazawa R, Iwai A, Obu S, Isobe K, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Taga T, Adachi S, Takita J  | 4. 巻<br>68                  |
| 2. 論文標題<br>Inotuzumab ozogamicin following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation successfully rescued relapse of CD19 negative acute lymphoblastic leukemia after CAR T cell therapy | 5. 発行年<br>2021年             |
| 3. 雑誌名<br>Pediatric Blood Cancer  | 6. 最初と最後の頁<br>e28980-e28980 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1002/pbc.28980   | 査読の有無<br>有                  |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-                   |

|  |                           |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名<br>Ono R, Ueno H, Yoshida K, Takahashi S, Yoshihara H, Nozaki T, Suzuki K, Nakazawa A, Saiki R, Seki M, Takita J, Ogawa S, Manabe A, Hasegawa D | 4. 巻<br>112               |
| 2. 論文標題<br>Clonal evidence for the development of neuroblastoma with extensive copy neutral loss of heterozygosity arising in a mature teratoma        | 5. 発行年<br>2021年           |
| 3. 雑誌名<br>Cancer Science   | 6. 最初と最後の頁<br>2921 ~ 2927 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/cas.14931  | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>Kosaka T, Uto M, Hiraoka S, Kato I, Umeda K, Hiramatsu H, Sakamoto A, Takita J, Mizowaki T | 4. 巻<br>68      |
| 2. 論文標題<br>Radiation recall myositis caused by pazopanib in a patient with refractory osteosarcoma   | 5. 発行年<br>2021年 |
| 3. 雑誌名<br>Pediatric Blood Cancer   | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1002/pbc.29147  | 査読の有無<br>有      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-       |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Kato K, Yoshimi A, Noda A, Otani H, Hojo H, Tanaka M, Tanaka Y, Ito Y, Nishimura R, Takita J, Yanai T, Koike K, Tsuchida M | 4. 巻<br>63              |
| 2. 論文標題<br>Distinct clonal evolution in a case with anaplastic embryonal rhabdomyosarcoma  | 5. 発行年<br>2021年         |
| 3. 雑誌名<br>Pediatrics International   | 6. 最初と最後の頁<br>782 ~ 789 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1111/ped.14499  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-               |

〔学会発表〕 計76件 (うち招待講演 18件 / うち国際学会 1件)

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>片井悠太, 上野浩生, 才田聡, 加藤格, 梅田雄嗣, 平松英文, 今村俊彦, 康勝好, 滝田順子   |
| 2. 発表標題<br>B前駆細胞急性リンパ芽球性白血病におけるRNAシーケンスを用いたIGHクローナリティの臨床的意義に関する検討(Clinical significance of RNA sequencing based IGH clonality analysis in B-cell acute lymphoblastic leukemia)(英語) |
| 3. 学会等名<br>第125回日本小児科学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>阿部寛之, 神鳥達哉, 上野浩生, 才田聡, 加藤格, 梅田雄嗣, 平松英文, 滝田順子  |
| 2. 発表標題<br>ETV6-HOXA11-AS融合遺伝子に伴うHOXA11-AS高発現を認めたEarly T-cell precursor ALLの一例(Early T-cell precursor acute lymphoblastic leukemia harboring ETV6-HOXA11-AS with high expression of HOXA11-AS) |
| 3. 学会等名<br>第125回日本小児科学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>田坂佳資, 上野浩生, 山崎夏維, 奥野高裕, 磯部知弥, 木村俊介, 梅田雄嗣, 原純一, 小川誠司, 滝田順子   |
| 2. 発表標題<br>共通の細胞起源から生じた,FGFR1変異/増幅を有する神経芽腫/褐色細胞腫の複合腫瘍(FGFR1 mutation and amplification in common cellular origin in a composite tumor with neuroblastoma and pheochromocytoma)(英語) |
| 3. 学会等名<br>第125回日本小児科学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年  |



|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>磯部清孝, 上野浩生, 加藤格, 磯部知弥, 奥野啓介, 才田聡, 梅田雄嗣, 平松英文, 小川誠司, 滝田順子   |
| 2. 発表標題<br>網羅的遺伝子解析によるLineage switch再発したSPI1融合遺伝子陽性T細胞性急性リンパ性白血病の病態解析(Genome / transcriptome analysis of a case with T cell acute lymphoblastic leukemia that switched to myeloid leukemia) |
| 3. 学会等名<br>第125回日本小児科学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>内原嘉仁, 加藤格, 大植啓史, 幸伏寛和, 緒方瑛人, 才田聡, 花木良, 梅田雄嗣, 岩本彰太郎, 平松英文, 足立壮一, 滝田順子   |
| 2. 発表標題<br>骨髄破壊的前処置を用いた臍帯血移植後に自己造血回復を伴う二次性生着不全を認めた小児ALLの1例(Secondary graft failure of autologous recovery following unrelated CBT with MAC) |
| 3. 学会等名<br>第44回日本造血・免疫細胞療法学会総会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>上月 景弘, 梅田 雄嗣, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 園田 真理, 岡本 竜弥, 小川 絵里, 川崎 秀徳, 岸田 憲二, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>巨頭症をきっかけに遺伝子診断を実施した卵巢原発未熟奇形腫の1女児例   |
| 3. 学会等名<br>第447回日本小児科学会京都地方会   |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                     |
| 2. 発表標題<br>AYA世代の診療の課題               |
| 3. 学会等名<br>第42回日本脳神経外科コンgres総会(招待講演) |
| 4. 発表年<br>2022年                      |

|                                 |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                |
| 2. 発表標題<br>小児固形腫瘍におけるゲノム医療の最前線  |
| 3. 学会等名<br>第2回埼玉小児固形腫瘍研究会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2022年                 |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                 |
| 2. 発表標題<br>神経芽腫における新規克服法の開発      |
| 3. 学会等名<br>第17回北関東小児がんセミナー（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2022年                  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子   |
| 2. 発表標題<br>Cancer heterogeneity of infant leukemia and its implication for prognosis and treatment |
| 3. 学会等名<br>第40回札幌国際がんシンポジウム（招待講演）  |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                           |
| 2. 発表標題<br>子どものがんを克服するための挑戦                |
| 3. 学会等名<br>京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2022年                            |

|                                    |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                   |
| 2. 発表標題<br>小児がんのゲノム医療              |
| 3. 学会等名<br>第2回小児がんゲノムWEBセミナー（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2022年                    |

|                                    |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                   |
| 2. 発表標題<br>小児がんにおける多様性の解明と新規克服法の開発 |
| 3. 学会等名<br>九州山口小児がん学術講演会（招待講演）     |
| 4. 発表年<br>2022年                    |

|                                    |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                   |
| 2. 発表標題<br>小児がんにおけるゲノム医療 ～見えてきた課題～ |
| 3. 学会等名<br>第3回群馬小児がんゲノムセミナー（招待講演）  |
| 4. 発表年<br>2022年                    |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>三上貴司、加藤 格、Wing James B、上野 浩生、才田 聡、梅田 雄嗣、平松 英文、樋渡 光輝、荒川ゆうき、大嶋 宏一、康 勝好、足立 壯一、祝迫 恵子、小川 誠司、坂口 志文、滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>マスマイトメトリーを用いた小児再発性B前駆細胞性急性リンパ性白血病の初発・再発骨髄の腫瘍免疫環境解析   |
| 3. 学会等名<br>第81回日本癌学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>赤澤 嶺, 加藤 格, 山田 全毅, 三上 貴司, 上野 浩生, 才田 聡, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 佐藤 真穂, 澤田 明久, 井上 雅美, 今留 謙一, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>EBV関連NKリンパ増殖性におけるマルチオミクス解析により異常なDNAメチル化を伴う予後不良群が示唆された                                  |
| 3. 学会等名<br>第81回日本癌学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>神鳥 達哉, 才田 聡, 上野 浩生, 加藤 格, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 垣内 伸之, 齋藤 明子, 足立 壯一, 富澤 大輔, 柴 徳生, 林泰秀, 小川 誠司, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>最未分化型急性骨髄性白血病および急性未分化型白血病の分子遺伝学的特徴に関する検討  |
| 3. 学会等名<br>第81回日本癌学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>田坂 佳資, 梅田 雄嗣, 上野 浩生, 神鳥 達哉, 緒方 瑛人, 才田 聡, 山田 洋介, 垣内 伸之, 田中 祐吉, 大喜多 肇, 義岡 孝子, 瀧本 哲也, 檜山 英三, 小川 誠司, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>肝未分化胎児性肉腫と肝間葉系過誤腫の統合的遺伝学的検討  |
| 3. 学会等名<br>第81回日本癌学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>磯部 清孝, 加藤 格, 上野 浩生, 関 正史, 木村 俊介, 磯部 知弥, 垣内 伸之, 大木 健太郎, 清河 信敬, 後藤 裕明, 渡辺 新, 佐藤 篤, 康 勝好, 小川 誠司, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>SPI1 高発現を示す T 細胞性急性リンパ性白血病の分子遺伝学的基盤について   |
| 3. 学会等名<br>第81回日本癌学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>樋渡 光輝, 関 正史, 松野 良介, 吉田 健一, 長澤 武, 佐藤 亜以子, 山本 将平, 加藤 元博, 渡邊 健太郎, 関口 昌央, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>神経芽腫における新規 TENM 3-ALK 融合遺伝子の解析   |
| 3. 学会等名<br>第81回日本癌学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>西村 友美, 垣内 伸之, 吉田 健一, 桜井 孝規, 片岡 竜貴, 澤田 守男, 竹内 康英, 前田 紘奈, 馬場 郷子, 滝田 順子, 宮野 悟, 万代 昌紀, 竹内 賢吾, 羽賀 博典, 戸井 雅和, 小川 誠司 |
| 2. 発表標題<br>正常およびがん組織におけるクローン進化乳管上皮細胞から乳癌へ至るクローン進化  |
| 3. 学会等名<br>第81回日本癌学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                 |
| 2. 発表標題<br>難治性小児白血病の分子病態の研究      |
| 3. 学会等名<br>第84回日本血液学会学術集会 (招待講演) |
| 4. 発表年<br>2022年                  |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>神鳥 達哉, 滝田 順子               |
| 2. 発表標題<br>最未分化型急性骨髄性白血病に対する網羅的遺伝学的解析 |
| 3. 学会等名<br>第84回日本血液学会学術集会             |
| 4. 発表年<br>2022年                       |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>三上 貴司, 滝田 順子                                      |
| 2. 発表標題<br>ブリナツモマブ投与後に系統転換し M-MDSC 様の形質を獲得した MLL-AF4 転座陽性白血病 |
| 3. 学会等名<br>第84回日本血液学会学術集会                                    |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>加藤 格, 滝田 順子  |
| 2. 発表標題<br>本邦における小児 AYA 世代 BALL に対する tisagenlecleucel のリアルワールドデータ |
| 3. 学会等名<br>第84回日本血液学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>磯部 清孝, 滝田 順子                            |
| 2. 発表標題<br>SP11 高発現を示す T 細胞性急性リンパ性白血病の分子遺伝学的特徴について |
| 3. 学会等名<br>第84回日本血液学会学術集会                          |
| 4. 発表年<br>2022年                                    |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>赤澤 嶺, 滝田 順子  |
| 2. 発表標題<br>EBV 関連 NK リンパ増殖症におけるマルチオミクス解析により異常な DNA メチル化を伴う予後不良群が示唆された |
| 3. 学会等名<br>第84回日本血液学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>片井 悠太, 神鳥 達哉, 上野 浩生, 赤澤 嶺, 磯部 清孝, 才田 聡, 加藤 格, 今村 俊彦, 康 勝好, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>小児急性リンパ性白血病におけるRNAシーケンスを用いたIGHクローナリティの解析と臨床的意義の検討                |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|                                    |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                   |
| 2. 発表標題<br>難治性小児がんの克服を目指した挑戦       |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2022年                    |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>宇佐美 亜由子, 才田 聡, 神鳥 達哉, 梅田 雄嗣, 加藤 格, 平松 英文, 荒川 歩, 米盛 勸, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>アレクチニブの長期投与が有用であったRANBP2-ALK陽性の類上皮炎症性筋線維芽細胞腫瘍               |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>田坂 佳資, 梅田 雄嗣, 神鳥 達哉, 田中 祐吉, 大喜多 肇, 義岡 孝子, 瀧本 哲也, 檜山 英三, 小川 誠司, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>C19MC miRNAの異常は肝未分化肉腫と肝間葉系過誤腫に共通する分子基盤である                            |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>赤澤 嶺, 加藤 格, 山田 全毅, 三上 貴司, 上野 浩生, 佐藤 真穂, 澤田 明久, 井上 雅美, 今留 謙一, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>EBV関連NKリンパ増殖症におけるマルチオミクス解析により異常なDNAメチル化を伴う予後不良群が示唆された              |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>神鳥 達哉, 才田 聡, 齋藤 明子, 足立 壯一, 富澤 大輔, 柴 徳生, 林 泰秀, 小川 誠司, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>小児最末分化型急性骨髄性白血病および急性未分化型白血病に対する網羅的遺伝学的解析                   |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>川口 晃司, 神鳥 達哉, 安積 昌平, 緒方 瑛人, 高地 貴行, 小倉 妙美, 堀越 泰雄, 岩淵 英人, 滝田 順子, 渡邊 健一郎 |
| 2. 発表標題<br>縦隔胚細胞腫瘍にNIRAS変異陽性の悪性黒色腫を合併した15歳男児例                                    |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>岩井 篤, 神鳥 達哉, 田中 邦昭, 小林 健一郎, 田中 里奈, 才田 聡, 滝田 順子, 毎原 敏郎, 宇佐美 郁也, 平家 俊男 |
| 2. 発表標題<br>ALK陽性組織球症における新規ALK融合遺伝子の同定   |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |



|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>三上 貴司, 加藤 格, James Wing, 田坂 佳資, 神鳥 達哉, 窪田 博仁, 平松 英文, 小川 誠二, 坂口 志文, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>プリナツモマブ投与中に系統転換したKMT2A再構成白血病にみられたMDSCに類似する免疫学的形質                         |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>磯部 清孝, 加藤 格, 上野 浩生, 関 正史, 木村 俊介, 磯部 知弥, 佐藤 篤, 康 勝好, 小川 誠司, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>SPI1高発現を示すT細胞性急性リンパ性白血病の統合的な遺伝的特徴について                            |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>樋渡 光輝, 関 正史, 松野 良介, 吉田 健一, 長澤 武, 佐藤 亜以子, 山本 将平, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>AYA神経芽腫症例に同定された新規TENM 3-ALK融合遺伝子の機能解析                              |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>後藤 裕明, 匂坂 麻衣子, 伊藤 美恵子, 上野 浩生, 滝田 順子, 柳町 昌克 |
| 2. 発表標題<br>無血清培地を用いた急性リンパ性白血病細胞のin vitro 薬剤感受性試験      |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会                          |
| 4. 発表年<br>2022年                                       |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>大封 智雄, 梅田 雄嗣, 横山 淳史, 吉田 健司, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 足立 壯一, 樋口 嘉久, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>LCH関連中枢神経変異症様画像所見を呈した若年性黄色肉芽腫                                      |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>山路 棟康, 田中 邦昭, 岩井 篤, 小林 健一郎, 北河 徳彦, 梅田 雄嗣, 滝田 順子, 岡本 晋弥, 宇佐美 郁也, 平家 俊男 |
| 2. 発表標題<br>stage diffuse anaplastic Wilms tumor 4歳男児例において検出されたTP53遺伝子変異の臨床的意義の考察 |
| 3. 学会等名<br>第64回小児血液・がん学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2022年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>田坂 佳寛, 加藤 格, 竹下 峻希, 吉岡 由布, 宇佐美 亜由子, 内原 嘉仁, 赤澤 嶺, 神鳥 達哉, 才田 聡, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 足立 壯一, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>造血細胞移植後3年間のギルテリチニブ維持療法中断時に再々発したFLT3-ITD陽性再発AMLの一例  |
| 3. 学会等名<br>第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会  |
| 4. 発表年<br>2023年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>滝田順子   |
| 2. 発表標題<br>「小児とAYA世代の腫瘍学：比較と引継ぎ」小児とAYAがんにおけるゲノム医療の課題            |
| 3. 学会等名<br>第18回日本臨床腫瘍学会学術集会 日本小児血液・がん学会/日本臨床腫瘍学会 合同シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                                       |
| 2. 発表標題<br>小児がんにおけるPrecision Medici                    |
| 3. 学会等名<br>YAMAGATA Hemophilia Web Seminar 2021 (招待講演) |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>磯部 清孝, 上野 浩生, 加藤 格, 関 正史, 木村 俊介, 磯部 知弥, 田中 邦明, 奥野 啓介, 才田 聡, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 足立 壮一, 小川 誠司, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>SPI1融合遺伝子陽性T細胞性急性リンパ性白血病における新規克服法の開発  |
| 3. 学会等名<br>第124回日本小児科学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>眞弓 あずさ, 今村 俊彦, 富井 敏宏, 三上 貴司, 田中 邦昭, 吉田 秀樹, 加藤 格, 川村 眞智子, 滝田 順子, 細井 創   |
| 2. 発表標題<br>SPAG9-JAK2融合遺伝子を有する白血病細胞はSTAT1-BCL-2/MCL-1 axisを活性化する(Activation of the STAT1-BCL-2/MCL-1 axis in leukemic cells with a novel kinase fusion gene SPAG9-JAK2)(英語) |
| 3. 学会等名<br>第124回日本小児科学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>川端 奈央子, 梅田 雄嗣, 赤澤 嶺, 田中 邦昭, 上月 景弘, 窪田 博仁, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>難治性小児悪性固形腫瘍に対するテモゾロミド併用化学療法の治療効果予測因子としてのMGMTタンパク発現の有用性の検討          |
| 3. 学会等名<br>第124回日本小児科学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>中島 光司, 日衛嶋 栄太郎, 森下 岳, 加藤 健太郎, 仁平 寛士, 本田 吉孝, 井澤 和司, 八角 高裕, 甲良 謙伍, 横山 淳史, 吉田 健司, 平田 拓也, 馬場 志郎, 窪田 博仁, 才田 聡, 加藤 格, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>劇症EBウイルス肝炎の肝移植後再燃の制御に化学療法を要した2歳男児例  |
| 3. 学会等名<br>第124回日本小児科学会学術集会  |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>磯部 知弥, 高木 正稔, 佐藤 亜衣子, 吉田 健一, 南谷 泰仁, 上野 浩生, 渡邊 健太郎, 永江 玄太, 清河 信敬, 康 勝好, 富澤 大輔, 宮村 能子, 石井 榮一, 水谷 修紀, 小川 誠司, 油谷 浩幸, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>網羅的トランスクリプトーム・エピゲノム解析による乳児白血病の分子病態の解明  |
| 3. 学会等名<br>第124回日本小児科学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                                  |
| 2. 発表標題<br>横紋筋肉腫におけるゲノム・エピゲノム解析による新層別化治療と新規治療法の開発 |
| 3. 学会等名<br>第124回日本小児科学会学術集会 (招待講演)                |
| 4. 発表年<br>2021年                                   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>木下 義晶, 野澤 久美子, 藤 浩, 宮地 充, 土屋 邦彦, 細野 亜古, 小川 淳, 菊田 敦, 滝田 順子, 大喜多 肇, 長 祐子, 清谷 千賀子, 横田 勲, 瀧本 哲也, 手良向 聡, 細井 創, 日本小児がん研究グループ横紋筋肉腫委員会 |
| 2. 発表標題<br>遠隔画像診断システムを用いた横紋筋肉腫委員会コンサルテーションチームの活動  |
| 3. 学会等名<br>第124回日本小児科学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>細井 創, 宮地 充, 土屋 邦彦, 細野 亜古, 小川 淳, 菊田 敦, 木下 義晶, 野澤 久美子, 藤 浩, 滝田 順子, 大喜多 肇, 長 祐子, 清谷 知賀子, 横田 勲, 瀧本 哲也, 手良向 聡, 日本小児がん研究グループ横紋筋肉腫委員会 |
| 2. 発表標題<br>我が国における横紋筋肉腫治療多施設共同研究の歴史と今後の展望   |
| 3. 学会等名<br>第124回日本小児科学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>土屋 邦彦, 宮地 充, 細野 亜古, 小川 淳, 菊田 敦, 木下 義晶, 野澤 久美子, 藤 浩, 滝田 順子, 大喜多 肇, 長 裕子, 清谷 知賀子, 横田 勲, 瀧本 哲也, 手良向 聡, 細井 創, 日本小児がん研究グループ横紋筋肉腫委員会 |
| 2. 発表標題<br>小児の保健・医療のエビデンスを構築する前向き研究 希少疾患 横紋筋肉腫に対する臨床研究  |
| 3. 学会等名<br>第124回日本小児科学会学術集会   |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                          |
| 2. 発表標題<br>小児固形腫瘍におけるゲノム・エピゲノム解析と新規克服法の開発 |
| 3. 学会等名<br>第26回なにわ皮膚腫瘍勉強会（招待講演）           |
| 4. 発表年<br>2021年                           |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                        |
| 2. 発表標題<br>「小児がん治療につながるゲノム医療」           |
| 3. 学会等名<br>Japan Cancer Forum2021（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2021年                         |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Takita J   |
| 2. 発表標題<br>“ Integrated genetic and epigenetic analysis of pediatric cancers ” Invited Presentation |
| 3. 学会等名<br>JCA-AACR Precision Cancer Medicine International Conference (招待講演) (国際学会)                |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子                                    |
| 2. 発表標題<br>細胞老化の関与とその治療標的としての可能性「小児がん発症の分子機構」市民公開講座 |
| 3. 学会等名<br>千里ライフサイエンスセミナー ライフステージとがん (招待講演)         |
| 4. 発表年<br>2021年                                     |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>磯部清孝, 滝田順子  |
| 2. 発表標題<br>トランスクリプトームとメチル化アレイの統合解析により同定されたT細胞性急性リンパ性白血病における新規高リスク群について |
| 3. 学会等名<br>第80回日本癌学会学術総会   |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|                          |
|--------------------------|
| 1. 発表者名<br>渡邊健太郎, 滝田順子   |
| 2. 発表標題<br>難治性骨肉腫の新規治療標的 |
| 3. 学会等名<br>第80回日本癌学会学術総会 |
| 4. 発表年<br>2021年          |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>田坂佳資, 上野浩生, 山崎夏維, 奥野高裕, 磯部知弥, 木村俊介, 梅田雄嗣, 原純一, 小川誠司, 滝田順子 |
| 2. 発表標題<br>神経芽腫-褐色細胞腫混合腫瘍は同一クローンから生じ、未分化な幹細胞様発現プロファイルを呈する            |
| 3. 学会等名<br>第80回日本癌学会学術総会   |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>滝田 順子  |
| 2. 発表標題<br>小児血液腫瘍疾患に対する新規解析手法 小児造血器腫瘍における多層的オミックス解析, シンポジウム |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会(招待講演)                            |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>内原 嘉仁, 梅田 雄嗣, 三上 真充, 山下 純英, 西田 南海子, 高木 雄久, 高橋 潤, 滝田 順子, 秦 大資, 塩田 光隆 |
| 2. 発表標題<br>頭蓋内非胚腫性胚細胞腫瘍治療10年後に脊髄神経鞘腫を発症した1例                                    |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会   |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>大部 聡, 梅田 雄嗣, 才田 聡, 加藤 格, 平松 英文, 荒川 芳輝, 宇藤 恵, 溝脇 尚志, 足立 壮一, 滝田 順子 |
| 2. 発表標題<br>頭蓋内germinomaの診断における髄液中胎盤型アルカリフォスファターゼ(PLAP)の有用性                  |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会  |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>有賀 謙, 鈴木 孝二, 田中 佳代, 吉川 利英, 安富 素子, 神鳥 達哉, 滝田 順子, 大嶋 勇成 |
| 2. 発表標題<br>KMT2A遺伝子再構成陰性の先天性急性リンパ性白血病の男児例                        |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会                                       |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>高木正稔、小川千登世、家原知子、野上由貴、富澤大輔、小川淳、滝田順子、水谷修紀、森尾友宏、細井創   |
| 2. 発表標題<br>小児難治性固形腫瘍に対するオラパリブの第I相試験(First in children phase I clinical study of oral olaparib in pediatric patients with refractory solid tumors) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会  |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>上月景弘、梅田雄嗣、才田聡、加藤格、平松英文、園田真理、岡本竜弥、小川絵里、川崎秀徳、滝田順子  |
| 2. 発表標題<br>卵巣未熟奇形腫を発症したCowden症候群の1例(Immature teratoma of the ovary associated with Cowden syndrome) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会  |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>内原 嘉仁, 梅田 雄嗣, 赤澤嶺、上月景弘、才田聡、加藤格、平松英文、滝田順子   |
| 2. 発表標題<br>再発骨肉腫2例に対するregorafenibの治療経験(Regorafenib treatment for recurrent or refractory osteosarcoma), |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会  |
| 4. 発表年<br>2021年   |



|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>大植啓史、梅田雄嗣、内原 嘉仁、幸伏寛和、緒方瑛人、才田聡、加藤格、平松英文、滝田順子        |
| 2. 発表標題<br>骨転移を伴った肝芽腫の2例(Hepatoblastoma with bone metastasis) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会                                    |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>岡本竜弥、岡島英明、上林エレナ幸江、園田真理、小川絵里、梅田雄嗣、平松英文、足立壯一、滝田順子、波多野悦朗  |
| 2. 発表標題<br>腫瘍破裂にて発症し、診断時一期的切除術を行った小児肝腫瘍の2例(Two cases of ruptured malignant liver tumor in children treated with primary resection before systemic chemotherapy) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会  |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>田坂圭資、上野浩生、梅田雄嗣、武内康英、垣内伸之、才田聡、加藤格、平松英文、小川誠司、滝田順子   |
| 2. 発表標題<br>肝未分化肉腫と肝間葉系過誤腫の統合的遺伝学的検討(Integrated genetic analysis of undifferentiated embryonal sarcoma of the liver and mesenchymal hamartoma of the liver) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会   |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>渡邊健太郎、木村俊介、樋渡光輝、加藤元博、宮野悟、上野浩生、南谷泰仁、油谷浩幸、小川誠司、滝田順子  |
| 2. 発表標題<br>DNAメチル化解析による神経芽腫11qLOH群内の超予後不良群の同定と、その「がん代謝」の特徴を利用した新規治療(Identification of ultra-high-risk subgroup with 11q deletion in neuroblastoma cases by DNA methylation profiling and its treatment targeting cancer metabolism) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会  |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>安積昌平、高地貴行、板倉陽介、川口晃司、堀越泰雄、神鳥達哉、才田聡、滝田順子、渡邊健一郎   |
| 2. 発表標題<br>急性リンパ性白血病型の寛解導入療法が奏功したPICALM-MLLT10陽性の急性分類不能型白血病(Complete remission in PICALM-MLLT10-positive acute undifferentiated leukemia after acute lymphoblastic leukemia-oriented induction therapy) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会  |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>赤澤嶺、上野浩生、加藤格、才田聡、山田全毅、佐藤真穂、澤田明久、井上雅美、今留謙一、滝田順子   |
| 2. 発表標題<br>一卵性双生児のEBV関連Tリンパ増殖性疾患不一致例のゲノム解析(Genetic analysis of a monozygotic twins discordant for EBV-associated T lymphoproliferative disease) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会  |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>中島光司、加藤格、窪田博仁、川端奈央子、田中邦昭、上月景弘、才田聡、梅田雄嗣、平松英文、滝田順子  |
| 2. 発表標題<br>Lineage switchの際、PAX5に遺伝子変異を認めたMLL-AF9陽性乳児単球性白血病の1例(A case of MLL-AF9 infant acute monocytic leukemia characterized by biallelic PAX5 alterations at relapse with lineage switch) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会   |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>神鳥達哉、上野浩生、才田聡、斎藤明子、足立壯一、富澤大輔、柴徳生、林泰秀、小川誠司、滝田順子   |
| 2. 発表標題<br>小児最末分化型急性骨髄性白血病(FAB分類M0)の遺伝学的特徴に関する包括的検討(Comprehensive genetic analysis of pediatric minimally differentiated acute myeloid leukemia (AML-M0)) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会  |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>磯部清孝、上野浩生、加藤格、関正史、木村俊介、磯部知弥、佐藤篤、康勝好、小川誠司、滝田順子  |
| 2. 発表標題<br>SPI1融合遺伝子陽性T-ALL様の発現/メチル化パターンを示すETP-ALLについて(Frequent SPI1-like signature in early T-cell precursor acute lymphoblastic leukemia) |
| 3. 学会等名<br>第63回日本小児血液・がん学会  |
| 4. 発表年<br>2021年   |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|